ラン栽培の障害者 自立支援

富津に温室 販売収益を賃金に

NPO 苗のオーナー募る

知的障害者に贈答用のコチョウランを栽培してもらい、自立を支援しようと、富津市西大和田に温室「アロンアロン・オーキッドガーデン」が完成し、12日に披露された。苗のオーナーを募って栽培資金を出資してもらい、収益を障害者の賃金に充てる仕組みだ。

運営するのは、いすみ市のNPO法人「アロンアロン」。理事長の那部智史さん(48)には重度の知的障害がある長男(21)がおり、障害者の月額賃金が平均で約1万5000円と知ったことから、「息子と同じ境遇の人たちが経済的な自立を図れる社会にしたい」と思い立った。

慶事での需要が高いコチョウランの栽培・販売で自立を支援しようと考え、同NPOを設立したのは2013年。法人名の「アロンアロン」は、那部さんの好きなバリ島の言葉で「ゆっくりゆっくり」の意味だという。障害者が育てたコチョウランを全国に販売する事業からスタートし、取引先企業が600社を超えるなど軌道に乗ったため、温室を建てて栽培から販売までを手がけることにした。

富津市の知人から借りた土地に建設した温室は広さ693平方㍍で、1万8000本の栽培が可能。温度や湿度、水やりなどをコンピューター管理し、栽培方法を学んだスタッフが知的障害者に育て方を教える。日本財団から建設費の6割にあたる3800万円の助成を受けた。

コチョウランの苗のオーナーを募って出資してもらい、栽培資金とする形で、出資は基本的に10本分（1万円）から。障害者が半年かけて育て、このうち1本を誕生日や母の日などの記念日にオーナーに届ける。残る9本は提携企業に販売し、その収益を障害者に支払う。月額賃金を10万円にするのが目標だ。

オーナー募集はインターネットを通じて既に始めており、これまでに154人から282万円が集まった。温室で働く障害者は20人の予定で、今後公募する。

那部さんは「オーナーとなった苗が障害者の手で育てられる。開花したら大切な記念日に届き、障害者の自立支援にもつながる。そこに共感してくれる人を増やしていきたい」と話している。問い合わせは同NPO（0470・62・6215）。

コチョウランの栽培を通じ、知的障害者の自立を目指す那部さん（富津市で）

入学準備金支給 3月に

千葉市教委方針 負担軽減へ前倒し

出費がかさむ小中学校の入学期の負担軽減に向け、千葉市教委は、低所得世帯に向けた就学援助のうち、入学準備金の支給時期を現行の7月から入学前の3月に前倒しし、学用品や修学旅行などの費用の一部を市町村が支給する制度。千葉市では現在、年3回に分けて支給している。

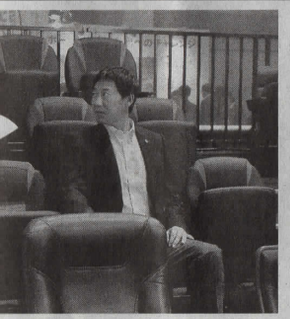
ただ、就学援助のうち、低所得世帯の負担になっている。

市教委によると、16年度に準備金を受給したのは小学1年生が458人（全1年生の5・8％）、中学1

4年以上無免許 陸曹停職

クロマグロ小型魚 漁獲枠超過

県は12日、資源保護のため漁獲が制限されている太平洋クロマグロの小型魚（30㌢未満）について、定置網漁の操業を漁業者に要請した。（7月～来年6月）漁獲枠41・2㌧のうち、定置網漁は9・2㌧で達したため。7～



スポーツ施設テーマ メッセで国際展示会

スポーツ施設をテーマにした国際展示会「スタジアム&アリーナ」が12日、幕張メッセ（千葉市美浜区）で開幕した。

国内外の建築会社やメーカーなど54社が参加し、体育館やスタジアムに関する模型展示や最新の人工芝や観客席などが並んでいる。

この日はスポーツ庁の鈴木大地長官や、千葉市の谷俊人市長が講演し、鈴木長官は「スポーツ環

生キハダマグロの水揚げを見学するベトナムのバイヤーら（銚子市で）